

---

# 魔砲少女リリカルなのは～最高神と転生者の物語～

アタナシア=Fate

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔砲少女リリカルなのは〜最高神と転生者の物語〜

### 【Nコード】

N46360

### 【作者名】

アタナシア＝Fate

### 【あらすじ】

異世界？チートでおkの物語が終わり（本編まだ終わってないけどね！！）最高神になった刹那は不幸にも死んでしまった少年雨沢恵一と一緒にリリなのの世界へ・・・ 打倒管理局！！by刹那  
打倒神！！by恵一（原作崩壊中）

# 1話 やつぱり一人ってさびしいよね!!

刹那

「暇だあああああああ」

「やあどうも刹那だお最高神やってます」

「リリなのの世界に転生して管理局滅ぼしたいよお」

「そんなことを考えてたら一通の電話が入った」

「もすもす」

「あ、こんにちは・・・すみません!!」

「ん?何?」

「・・・間違えて人一人殺してしまいました・・・」

「ん〜じゃあお前は消滅処分・・・ちよつとまって」

「あ、はい なんですか?」

「今からそつちに行く」

「え?あ、はい!!」

恵一

どうも雨沢です

え〜と死にましたそこにいるやつの話だとミスして殺してしまったらしいです

「え?あ、はい!!」

ん?どうしたんだ?

「おいそこの坊主!今から最高神様が来てくださるんだから無礼な態度はとるなよ」

「はい・・・」

最高神かぁ・・・どうせ変なジジイだろ・・・

「おい！そろそろくるからしつかりしてるよ糞がkぎゃあああああ  
あああああ」

その瞬間前にいたやつが消えてしまった

そして俺の前にいたのは俺とたいして年が変わってない少年だった

刹那

こいつかぁ・・・

「お前、転生に興味はあるか」「ある！世界はリリなので」「はやいな・  
・・・」

「じゃあお前に力を授けるぞ

身体能力は中級神クラス

魔力は上級神のクラスでSSSの1万乗だからな

不老不死

年齢を自由に操れる能力と

まあそれくらいか」

「早く転生させてくれ」

「・・・ただし条件がある」

雨沢

条件？なんだ？

「俺も一緒に行く到着時間は原作開始の1週間前姿はなのはたちと  
同じ年齢だ」

・・・

「おkじゃあ早くいくか」

「よし、行くか」

最高神がいなくなってから他の神たちの仕事がいそがしくなったの



1話 やっぱり一人ってさびしいよね!! (後書き)

ふう・・・オワタか

**設定資料集（前書き）**

ドオウンドオウン更新中

## 設定資料集

主要キャラ

きさらぎせつな

如月刹那 c v 杉田ヴォイス

愉快犯1

最高神で愉快犯これほどひどい組み合わせはない

管理局は最高議会をつぶして乗っ取るうと考えている

ちなみに仲間以外のやつには一切手加減しない（とくに仲間を侮辱したやつには）

羽はフランドールのやつ

容姿子供：ラグナ「ザ」ブラッドエッジ

技

SLB ブラットカイン ブラックオンザスロート ガントレット

ハーデス カーネージシザー インフェルノディバイダー 風林火

山 オプティックバレル

デバイス：ベルヴェルク、ウロボロス（<sup>アホ</sup>管理局曰く「それはロスト

ロギアだ」らしい）

B J ラグナの服

あめさわけいいち

雨沢恵一

如月恵一 c v 子供：もちさんヴぁいす（知って

る人は知っている）の人 大人：あきおさん

愉快犯 2

どっかのアホ神に殺され刹那に転生させられた人・・・もとい高位の神

転生した際に刹那によって神にさせられた刹那いわく「これですつと一緒だお」らしい

容姿：子供黒髪黒目のイケメン大人：折原イザヤをおもってくれればいい

技 マスタースパーク

デバイス ミニ八卦炉

B J

きさらぎしろ

如月白c v 子供：カルルの人 大人：いさじヴォイス

愉快犯 3

どっかのアホ神に殺され無理やり転生されかけたところを刹那に助けられたこちらも神

きさらぎくる

如月黒c v：子供釘宮 大人： Condom

愉快犯 4

刹那の彼女もとい嫁もとい最高神補佐

## 魔法の定義

リリなの世界 リンカー魔法

リンカーコアを媒体にして撃ち出す魔法

主人公たち 神術<sup>チート</sup>

神の力によって

どんな力にでも変換可能

神としての位が高いほど神力が大きい

ブレイブルー 魔素式魔術

空气中を漂う魔素を媒体とした術式

東方 非術

幻想郷にいるものだけが持つてる力を使って撃ち出す力

この小説では魔法と分類する

力の定義

世界について

大抵の世界は管理局<sup>アホ</sup>によって管理したことになる（実際管理してるのは刹那）が特殊な世界（他の漫画、ゲームの世界）は刹那の隠蔽神術によって  
認識できないようにしてる（管理局には管轄外世界と認識させている）

ただし刹那（4話）の製作した世界は認識できるが神術によって中  
の世界に入れない（管理局に関係ない世界（幻想郷など）の生物な  
ら入ることができる）ちなみに神術の結界は弱い場所でもアルカン  
シエルを秒間1000発を30秒間連続で撃ち出す威力じゃないと  
破れない

## 管理局側

転生者A、B、C、D、E、

強さ的には雨沢の一万分の一（管理局員は雨沢の1億分の一の弱さ）  
なのはたちを手ごまにしようと考える  
ことごとく刹那にサンドバックにされる哀れな人たち

KY

KYそれだけ

### 三話 管理局にけんかを売ろうと思います

刹那

ふう……ついたか……

「なあ神ここはどこだ？」

「高級マンションの一室……あと鏡見てきてみあと俺の名前は刹那だ」

「……?……うおっ姿がイケメンの子供になってるっつっつっつ  
う」

「ってかお前姿がまんまラグナザブラッドエッジを子供にしたものじゃねえか!」

「いいだろ」

「じゃあ俺はなのにはあってくる」

「いってらじゃあ俺は管理局に喧嘩売ってくる」

「お前……管理局嫌いなのか？」

「んっ」

「じゃあこっつてくる」

ふう・・・いったか

アースラ内

ここが管理局か・・・あ、管理員がこっちにくるお

「ぼうよ」黙れ「質量武器!？」

「アースラ内に侵入者発生」

おお・・・怖い怖い

「そのこの者武器を捨てて」ブラックオンスロット「うわあああ」

「そのこのやつらよく聞け俺は世界虚空情報統制機構、刹那「ザ」ブラッドエッジだ、これより管理局に敵対することを宣言する」

「ハッ何言ってるんだ!魔力も持ってないやつが!」

「俺が魔力を持ってないとでも?」

俺は魔力の微量に開放する

「何だこの魔力は!」魔力測定オーバーSSS「SSSだと!？」

「いくらSSSだからって管理局を相手にできるはずがない!」

「だが、全力っていった?」何!?!「これは俺の1億分の1だぞ

(まあそれ以上あるんだが)

「では・・・さらばだ・・・」

三人称

アースラ内

「なんだったんですかアイツは・・・」

「魔力がオーバーススなのはいいがあいつの言ったとおりならアレの一億倍の魔力か・・・」

「それに世界虚空情報統制機構(これからは統制機構)か、聞いたことがない・・・」

「しかしあんなのがたくさんいるんだとしたらこっちに勝ち目はない・・・」

「・・・あんなやつら俺たちの魔力の100分の1だったぜそれと1億分の1ってのも嘘だろ・・・」

「・・・当たり前だろ俺たちになうものなんていない」「・・・」

転生者 A

『大変だ!』

『なんだ?神』

『そつちに転生者が二人いったんだ!』

『そんなやつら俺たちなら楽勝だろ』

『違う・・・そつちの世界に行ったのは一人は転生者・・・お前らとは別格だ・・・』

『そいつらはどのくらい強いんだ?』

『お前らの1万乗・・・』

『なんでそいつがそんなに強いんだ!お前だつて神だろ!』

『あと・・・もう一人が問題なんだ・・・』

『誰なんだ?』

『その転生者を転生させた本人・・・』

『本人・・・?』

『・・・最高神様だ・・・』

『何!』

『転生者の名前は・・・雨沢恵一・・・最高神様は・・・如月刹那』  
『刹那とっ!』』

『なんだ?あつたことがあるのか?』

『さつき統制機構つてゆうのを名乗つてアースラに攻めてきた・・・』

『いいか!そいつらにあつたら絶対に逆らつな!転生者つてこと  
もばれるなよ!』』

『なんでだ?』

『わしが消される・・・』

『・・・』

『だから・・・絶対に戦うなよ!』

『戦つたらどうなるんだ?』

『良くて死亡・・・最悪存在の消滅』

『わかった』

『お前らなら大丈夫だな』

「「「「上から連絡が入つた」」」」

「?」

「統制機構には逆らうな！」

俺たちは神のことは上司といつてある

「何!？」

「じゃあどうすれば・・・」

アースラは静寂に包まれた

## アースラ制圧 ニコニコ生放送

刹那

「おーい雨沢」

「ん？」

「管理局に喧嘩売ってきたWWW」

「ちよっおまWW」

「で、とりあえず統制機構って名乗ってきた」

「図書館かよ!!」

「まあいいじゃない俺は刹那〓ザ〓ブラッドエッジって名乗ったが・」

「思いつきり図書館の敵じゃねえか!」

「で、提案なんだがアースラに乗ってみたくね?WW」

「それいいなWWW」

二人は奇妙な笑い声を上げていた

「よし!管理局にねっつごー」

「おー」

管理局員たち

「ちわー統制機構でーす」

ちなみに刹那は絶賛ニコ生中だ

「はいどーも始めました管理局制圧放送です、如月刹那と「雨沢恵一」がお送りしますよー」

ちなみにニワンゴにハッキングしてBANをできない様にしてある  
さらに放送相手は元の世界の人たち

コメント

<管理局つてあのりりなの？

管理局に裁きの鉄槌だヒヤッハ

これBANにならぬのか？

通報しますた

なのは俺の嫁

俺の嫁だろ

フェイトは俺がもらった

グイータは俺がもらおう

よろしいならば戦争だ

WWW

WWW

WWW

これって本物？

本物らしいよ

なんか放送主は神様だって

嘘だろ？

いや俺が臨死体験中にあいつに会ったことがある

まじで！？

神様に気に入ってもらえばあっちにいけるらしいよ

<投稿者米>安価<<30で好きな姿でこっちで遊べる魔力ランク  
はSSSオーバー

k s k

k s k

k s k

k s k

k s k s

k s k s k

k s k

ラグナザブラッドエッジで

レミアア・Sで

KYクロノくん

やる夫で

w w w

w w

K Y W W

K Y W W W

ちよw w管理局にKYいるだろ>

「じゃあ白クロノで」

<ヒヤッハー

ヒヤッハーア>

「ん？ここは？」

「管理局」

「え？まじできたのか」

「お、まじでKYだ」

「雨沢さんに刹那さんだー！」

「よし白はクロノをつぶして来い」

「ラジャー」

シロ

「あ、KYハケーン」

「なんだ貴様は・・・？僕？」

「さてさていづくよースターライト」

「グッ」

「ブレイカーアアアアアアアアアア」

「ふう・・・」

KY抹殺完了ん？あいつらは？魔力はSSSいってるが俺の十分の一くらいか

「お前・・・転生者の雨沢か？」

「雨沢さんじゃないけど？」

？なんで雨沢さん？

「よし！お前をつぶして人質にしてやる」

「お前誰だよWWW」

コメント

<シロやつちゃえー

なんだあいつらWWW>

A「なのはたちを肉奴（ryにしてやるぞおお」

<よし！あいつらを殺せ

同意

同意

同意

シロ：おkww>

シロ「レイジングハート」

<セットアップ

セットアップ>

シロ「セットアップ」

「ウロボロス」

A「！？」

「セットアップ」

<刹那さんk t k r

ウロボロスがデバイスかよw w >

「ウロボロスだけじゃないよ」

<! ?

! ?

! ? >

「ベルヴェルクセーットアープ」

「オプティックバレル!」

「「「「あべし!」」」」

「よし!シロ残りはお前がやれ」

「了解」

「ハッ!ザコが調子にのんなよ!」

「それお前だろw w w w」

「ちなみに俺が力を与えたことお忘れなく」

「何! ?」

「さて・・・シロ・・・行け・・・」

「カーネイジ」

「シザー! ! !」

「ゲハアアア」

ちよwwwなんて三流悪役www

「あ、雨沢さん」

「やあ、シロくん、刹那く管理局はミッドガルドに送り返したよ」

「よし！じゃあシロこれ受け取っといてくれ」

「これは？」

「お前が死んだら転生させてやるってことだ」

「ありがとうございます」

ありがとう神様

<あれを、もってたら死んだ後「ブラットカイン」できるのか  
なんだ今の規制wじゃ俺も「インフェルノディバイダー」

まじだwww

「カーネージシザー」

何言ったしww

TNT「ドカーン」>

「おいwwwコメ自重しろww」

<サーセン

サーセン

サーセン

サーモン>

「まあこれで制圧したことだしこれで放送を終わります、バイバイ」

<乙

乙

乙

乙んつん

「オプティックバレル」

乙パイ

「テメエ！」

乙

>

アイスラ制圧 ニコニコ生放送（後書き）

転生者WW転生すらしてない人に負けてるよWW

ええ！あの人がきちやうの！？

シロ

俺は刹那さんに元の世界に送ってもらった後

三日間普通にくらしてたが四日目普通に歩いてたらダンプに跳ねられ俺は……死んだ……

「ん？ここはどこだ？」

『おいお主！今から言うことを良く聞いとけよ』

アースラ内

刹那

ふう……生放送はたのしいな

<またアースラ殲滅制圧とかやんないの？>

「うーんこんどは管理局に押しかけようと思ってるんだが」

<管理局オワタww

管理局終了のおしらせww

管理局エ……

そつえば？今原作的にはどれくらいなんだ？>

「明日が原作開始だが？」

<なのはk t k r

淫獣エ・・・

淫獣殲滅放送でよくな？

いやむしろジュエルシード奪えし>

「ジュエルシードは俺がもらうよ？」

p i p i p i p i p i

「あ、まてメールだ」

<内容何？

彼女？

彼氏？

アッー

「今・・・信じられないことが起こった」

何？

何

？

？

おしえろ！

「シロが・・・」

「シロがどうしたか刹那？」

シロが？

シロがどうした？>

ちなみにシロはこの放送で準レギュラーです

「シロが・・・死んだ・・・」

「何！」

<なんだってー！

そんな・・・シロ君が・・・  
嘘だっ！

シロ君！

刹那は言っているシロはここで死ぬわけわないと

( ; ; ; ) >

「じゃあちよつとシロに会いに言ってくる」

<早くいけ！

早くしろ！

シロ君をここに連れて来い！

神だろ！

そーだそーだ>

「行くからちよつと放置する雨沢！行くぞ！」

「応！」

シロ

『お前を故意に殺したのは訳がある』

『お前にはリリなのの世界にいつて如月刹那と雨沢恵一ってのを殺して来い』

「無理だ！」

刹那を殺せ？ふざけるな

『ほう・・・神に逆らうか』

当たり前だ

「お前が刹那みたいな神を語るな！なんで刹那を殺そうとするんだ！」

『きまつてるさ、あいつを殺して俺が最高神になるためだよ』

最低だコイツ……

『ほう……』

！？

『誰だ、貴様……』

「刹那！」

せつなあ！

『刹那だと……』

『くそがつ開け！死者の門！』

『何やってるんだ』

『封印！』

『クツ封印されたか！』

『まあいい何人かを転生させたか「うぎゃあああああ』

『シロっ大丈夫か？』

「あ、うん！でも記憶が全然思い出せないんだ……」

『どのくらいだ？』

「刹那たちと過ごした記憶以外家族も！友人も！」

『……すまなかった』

「刹那があやまることないよ」

『お詫びに転生させてやろう行き先は俺のところでもいいか？』

「ああ・・・」

『よし、姿はシロククロノでいいな』ああ「あとお前の名前は如月白だ！」

「ああわかった」

「あの俺のこと忘れてる？」

「『いたの？』」

「うっう・・・酷い・・・」

『まあ帰るよ！リスナーも待ってるし』

「え？俺のために放送放置かよ！ありがとう・・・」

『「」「帰還』」

雨沢

アースラ

「あ、言い忘れてたが雨沢と同じスペックにしたからな  
いい仲間ができたな

「了解」

「だからお前らは高位の神だ」  
ん？チヨットまで

「今、ナンツツタ？」

「え？高位の神って・・・初耳だが・・・」え？」

よし！決めた

「刹那君、 O H A N A S H I しょうか」

シロ

「刹那君、 O H A N A S H I しょうか」

「シロオオオ助けてえ」

「いや命の保証がないからやめとくよ」

「シロ！？謀ったな」

いや謀ってないし・・・



ええ！あの人がきちやうの！？（後書き）

刹那：うう犯された・・・

シロ：まあなんだ気にするな

作者：被害届け出しとけば？

雨沢：犯してねーよ

刹那：作者！俺が困になるから被害届けを「インフェルノデイバイダー」きゃああああああ

作者：え？やばっ！

雨沢：作者・・・『OHANA SHI』しようか

作者：え？ちよっWWW引きずらないで犯される〜ホモいるよ〜「誰がホモじゃあ！」「ガスッ」・・・ふみゆう

シロ：え？誰もいなくなっちゃった

シロ：ではみなさん

作者：さよーならー

シロ：・・・出番とられた・・・

拠点って重要じゃね？（前書き）

A r i s h i a さん、F r e e F l y さんのクロスが決定しました

いつか書きたいと思います

あと今回は短いですが今日は一回更新します



ふう・・・楽しかった・・・多分今俺はすごくいい笑顔をしているに違いない

「で提案なんだが本拠地の世界を作ってみないか？」

「ふむ・・・いいかもなそれ」

「なんかおもしろそうですね」

「じゃあ俺が世界の土台を作ってくる」

5分後

「できたお！」

「「早！！」」

まじで早すぎだろ・・・

「最高神くおりていなめんなしww」

あ、コイツ最高神だったな・・・

「よし！行くぞ！」

「「了解」」

シロ

「「（）。。。」」

何これ・・・

「どうだ大きさは地球の100乗くらいはあると思うんだが」

「なんでここまで大きくするんだ？」

雨沢の言うとおりである

「まず第1区域が居住区第2区域、第99区域が未定となってるちなみに区域移動は転移装置を使うぞ」

雨沢の発言はスルーか

「まあまだ使わないからいいけど」

「よし！作業開始！」

少年作業中

「「「すごく……カオスです……」」」

「それにしても……天界の科学力は世界一だな」

「「「うん……」」」

「管理局の何百世代も上だよ……」

「まあ今日はもう寝るか……」

「「「はい」」」

「家の出口から俺たちのマンションにいけるようにしたから」

「まあ当たり前だけど家は一緒な」

「「「うん」」」



完成！？デヴァイス&1t;.&1t;.ぶるああああ&gtt;.&gtt;.

ある日の午後・・・すみませんうそです原作開始日です・・・

シロ

「できた！」

「何が？」

「お前らのデヴァイス」

俺たちのデヴァイスか

「見せて」

「ほい」

>>ぶるあああああああ<<

・・・・・・イラッ

ヒュン シロと雨沢がデバイスをぶん投げた音

ドーン デヴァイスが壊れた音

「デヴァイスウウウウウウ」

「うるさい！」

「これが俺たちのデバイスって言ったら『おはなし』するよ」



「なんできたの」

「だっていきなりどっかに消えちゃうから「ドカーン」できないんだもん」

「なんか変な修正が入ったな・・・」

「わかったわかった今日はたくさんしてやるから」

「やったー」

「ってことだから今日は二人ともジュエルシード回収にいてこい仕方ないな・・・」

「へーい」「へーい」

OUT

その夜

「や、はあん」

「クロ・・・痛くないか・・・」

「大丈夫・・・んっ」

「やっ・・・はあん」

「そろそろ激しくしても大丈夫だな」

「やっ激しいいいい」

「きちちゃっ・・・らめえ・・・すじいのきちちゃっ・・・」

「あああああああああああ」

「にゃ、にゃかにでてる……」

「さて……今夜は寝かさいぞ」

「ひゃ……ひゃい……」

二人の夜は続く……

雨沢

いまごろあいつらは……ちくせつつらやましい

「あつたジュエルシードだ！」

ん？ホントだ

「なのはが回収しようとしているな」

「まあこつちがさきに「ジュエルシード封印！」早いな……」

「誰！？あなたたち」

「名乗るほどでもない」

「それは危険なもの！」

「しってるよだから欲しいんだ、じゃあね」

「いちゃった・・・誰なんだろ・・・あの子たち」

「さて早く帰って覗きましよう!」

シロ・・・お前・・・

完成！？デヴァイス&It；&It；ぶるああああ&gtt；&gtt；

(後書

作者：シロ君にそんな趣味があつたとは……

刹那：なんか視線があると思つたらシロ……お前か……

クロ：／／／

恵一：最低だろjk

シロ：いやいやまてまて恵一も覗いていただろ！

刹那：覗いたことは認めるんだ……

クロ：……／／／

刹那：シロ……恵一……『おはなし』しようか……

シロ 恵一：(。(。；)( )

クロ：だめだよ刹那あくだつてボクは覗かれてたこと知つてたよ

刹那：え？

クロ：なんか覗かれてたらボク……余計に興奮しちゃつて……

／／／言えなかつたの

刹那：シロ……恵一……つてことだ許してやるよ

シロ 恵一 作者：ありがとうクロ様！！

刹那：……ん？なんで作者が混じつてんだ？

シロ：作者なら刹那の股間をずつと見てたよ？

刹那：作者……言い残すことはあるか？

作者：刹那のは立派だつて「マスタースパーク」

刹那：よし！悪は滅びたからクロさいごは決めよう「俺たちは？」

わかつてるよな……「はい！」

刹那 クロ：ではみなさん

刹那 クロ 作者：さよーならー

刹那：作者……こつちこい「ひいひいひい」

魔砲少女リリカルなねは

「さて……明日から学校だぞ」

「「「へ?」「」」

「あれ?明日から魔砲少女がいる学校に入るって言わなかったか」

「「「うん」「」」

「それよりどうやって編入できたの?」

「校長に『OHANA SHI』してやったら即おkでたぞ」

「……ご愁傷様です」

「ってなわけだばれない程度に魔砲少女を見に行くぞ」

学校

刹那

ふう……

「さ、入ってください」

「どもー」

「ハロー」

「こんにちは」

「よろしくー」

「あ、えっと自己紹介をどうぞ」

俺の出番か

「えーっと刹那・スカーレットです」

嘘？言っていないよトリステインでわこの名前だったから

「シロノ・ハラオウンです」

シロ・・・結構遊んだな・・・

「クロ・スカーレットです」

おおクロオ・・・乗ってくれた・・・

「如月恵一です」

まじめにいったな・・・

「ええと誰か質問はあるかな？」

「はい！どこ出身ですか？」

「レーヴァ」

「レーヴァ」

「レーヴァ」

「日本」

まあそのあと質問は続いて今は昼休みである

「よし！昼飯いってる」

「刹那は？」

「カートリッジ作りに・・・」

「おkわかった」

学校の裏

「私の蝶不規則に飛び回り、私の手に燐分をつけた」

まあ軽く歌いながらカートリッジを作ってるんだがカートリッジの容量上カートリッジ10個でジュエルシード1個だから非常にめんどくさい

「7個目完成、刹那君！それを返して！」

「え？」

振り向くとそこにはあの三人がいた 俺＼(^o^)/オワタ

なねは

「ちょっと私なねはじゃないもんなのはだもん」

「どうしたのなの？」

「なんか言わなくちゃいけない気がしちゃったの」

「ふん、で、あの四人なんか怪しくない」

「どうしてなのアリサちゃん」

「だって違う家名の人が一気に3人も転校してきたし、レーヴァなんて場所聞いたことないわよ」

「そーなんだ」

「だから昼休みあいつらをつけるわよ」

「う、うん」

「よしあいつら昼ごはんを食べにいったわよ」

「うんそうだね」

「あ、あの刹那ってやつとわかれたわよ」

「何か怪しいわね」

「じゃあ刹那君のほうに行ってみようよ」

「うん」

裏

「　　」

「何かやってるわね・・・」

「あの何かしらあの青い宝石・・・」

青い宝石？・・・ジュエルシード！？しかも11個も！？

大変！早く返してもらわなくちゃ

「刹那君何やってるの！」

「え？」

刹那君は意外そうなものを見る目でこっちを見てきたの・・・

刹那

ヤバー！！ばれた！！

「ドウシタンデスカ？ミナサン・・・」

「それはジュエルシードといって危険なものなの早く返して！」

「ヘーソウナンデスカ」

「よくわからないけどそれは危険なものらしいから早く渡しなさい  
「よ」

「やだ！」

ヒュッ 逃げた音

ガシッ つかまった音

ヒュッ 逃げた音

グワシッ 再び『強い力で』つかまった音 俺の人生プライスレス

「さて聞かせてもらおうかしら・・・」

「・・・ポチッ」

「ほら！何か言いなさいよってあれ？」

「消えた？」

必殺！ステルス迷彩これで逃げられるぜ・・・って？

なんでなのはがついてくるんじゃないやああああああああ

「あつちから魔力の反応があるよなのは」

チツ淫獣か・・・にしても魔力・・・orz

「シロ？」

「何？」

{ 帰る }

{ うん・・・なんとなく想像はついたよわかったあとで二人に伝えとく }

{ それ以前にお前らも帰ったほうがいい・・・ }

{ いやそれ無理 }

{ ...? }

{ 目の前に二人がいる }

{ がんばってくれ・・・orz }

{ うん・・・わかった }

お前ら・・・生きて帰って来い・・・

このあと恵一に『OHANA SHI』されたのはまた別の話

>> 終われ <<

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4636o/>

---

魔砲少女リリカルなのは～最高神と転生者の物語～

2011年10月7日11時02分発行